

第3種電気主任技術者試験（電験3種）合格

高知県立宿毛工業高等学校 電気科3年 松井 真哉

第3種電気主任技術者試験（電験3種）とは、電圧5ボルト未満の事業用電気工作物(出力5千キロワット以上の発電所を除く。)の工事、維持及び運用の保守の監督を行うことが出来る難関国家資格です。主に工場やビルの保守監督に従事する者が取得を目指す資格です。試験は、理論、電力、機械及び法規の4科目があり、年2回の試験で3年以内に合格する必要があります。

松井さんは、令和5年度下期に理論、令和6年度上期に電力、機械、法規に合格し、晴れて第3種電気主任技術者試験に合格しました。令和6年度上期の合格率は16.0%でした。

○松井真哉さんからのコメント

私が電験三種に挑戦しようと思ったきっかけとしては、私自身がより多くの資格を取得してみたかったことや、先生の声掛けに加え、バレーボールの部活動中による右手小指の骨折により、出場できなかった技術競技大会から、無気力な私に他に挑戦することができることはないのかなと思っていたことなどがきっかけとなりました。

いざ、電験三種の勉強を始めてみると、部活動と両立しながらなので平日は部活終わりの19時頃から21時頃まで勉強を行い、それに家庭学習も行っていました。そして長期休暇では、朝の8時30分頃から夕方18時30分頃まで毎日学校でメリハリをつけ、集中力を保ちながら勉強を行っていました。ですが、一人での挑戦でもあったので何度もやめたいと思うことがありましたが、先生が作ってくれた昼食がとても美味しかったことや、友人や先生方の励まし、また、部活動の存在も大きな支えとなり、続けることができました。2年生の3月頃に行われた、私にとって初めての電験三種の試験では、4科目中1科目受かることができ、その時は初めて電験三種の勉強が報われた感じがしました。それにより、2度目の電験三種の試験に向けて勉強に取り組みやすかったです。そして残りの3科目への挑戦が始まりました。3科目の勉強は、毎日2科目ずつ念入りに勉強を行いました。夏休みになると、2度目の試験も近づき、ラストスパートをかけて勉強を行いました。毎日勉強をしてきましたが、本当に3科目受かるのかという不安もありました。ですが、試験前日に先生が作ってくれたカツ丼により、そのような不安も少し解消することができました。無事合格がわかったときは、4科目中1科目受かったときに比べて、比べ物にならないほどの達成感を感じることができました。また、1年間の努力が報われた気がしてとても嬉しかったです。

現在は、電験三種の勉強を通して、身近な電気製品の構造や仕組みに興味を持ち、普段何気なく使用している物の仕組みが分かると面白いと感じています。また、電験三種によって得られた知識を活用し、生活に欠かせない電気の安定供給で、人々の生活を支えられる存在になれるよう、頑張りたいです。

